

LIFE TIMES

迎春



平成27年1月5日(月)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 白土 雄二郎
お問合せ窓口 : 芝 啓彦

第115号

【目次】

1. 2015年 新年ご挨拶
2. 当社安全QA大会 開催
3. 当社第38回技術検討会 開催
4. 三菱化学グループ 生産技術ポスターセッション参加報告
5. 場所紹介 ～宮城県利府町の巻～
6. LIFEによる物流改善提案のご紹介 ～実績一貫単価について～



1. 2015年 新年ご挨拶

ソリューション営業部長 白土 雄二郎

あけましておめでとうございます。旧年中は格別なるご厚情を賜り、ありがとうございました。

昨年、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動影響により内需や生産が弱含みで推移し、また夏場の天候不順による個人消費低迷などで日本の景気は鈍化しました。その一方で富岡製糸場が世界遺産に登録されたり、宮崎駿監督の「風立ちぬ」のアニメ賞受賞、錦織圭選手の全米オープン準優勝など日本が世界に認められ活躍した一年でした。

今年、昨年12月に施行された衆議院選挙の結果、与党の圧勝で幕を閉じ安倍内閣の長期政権に足場を固めました。また、デフレ脱却に対し活躍した「アベノミクス」も再始動して、今後も様々な経済政策を検討されていくと思われませんが、円安進行などによる影響が日本経済に好循環をもたらすのか不透明感の強い見通しとも言われております。そのような環境の中で、企業としては迅速で正確な判断が求められると思います。

物流業界では、深刻なトラック運転手不足に高齢化が表面化しており、さらに環境や安全対策費負担も増加傾向にあります。しかし、「安定的な輸送サービスの供給」が私たちの使命であり、お客様のご理解をも頂きながら、この難局を乗り切って参ります。

当部署としましては『信頼されるソリューションプロバイダー』としてお客様との「絆」を一層深めつつ、安全QAを基盤に、更にお客様のご要望にフレキシブルに対応し、当社の中期経営計画『MCLC APTSYS 15』の総仕上げを実行して参ります。さらに、三菱ケミカルホールディングスグループの新コーポレートブランド『THE KAITEKI COMPANY』を支える『KAITEKI物流』の担い手として、積極果敢に取り組んで参りますのでご指導の程よろしくお願い申し上げます。



2. 当社安全QA大会 開催

11月14日、鹿島支社において、25回目となる2014年度全社安全QA大会が開催されました。石川社長以下会社幹部の出席の下、荷主さま、菱化ロジテック社・パートナー会社の皆さまに多数ご参加頂き、鹿島・黒崎・四日市・水島・坂出の5支社、尼崎油槽所、西日本エリア営業部、菱化ロジテック社からの発表に対して活発な討議が行われ、有意義な大会となりました。

今回の発表では安全文化の構築に向けて、幅広い活動が報告されました。各場所の発表テーマは以下の通りです。

- ①作業改善活動による安全職場の構築
- ②カーボン紙袋包装ライン不具合改善
- ③トラブル防止への情報伝達の改善
- ④配管渡り通路の修繕と管理体制の構築
- ⑤ソーラス対応の取り組み(保安対策)
- ⑥A社大阪工場における安全QA活動
- ⑦高度化成倉庫不具合改善活動の取り組み
- ⑧カーボン倉庫安全文化の構築に向けて
- ⑨フォークリフト作業における不具合の改善

いずれも第一線の作業員、ドライバーの方、パートナー会社の皆さまとの一体となった取り組みによるもので、『MCLC APT SIS15』2年目のRC活動ポイントである化学品の「KAITEKI物流」の実現につながる活動でした。

石川社長からの総評では、「どの発表チームも問題点を定量的に把握し、改善内容を可視化している」とあり、これからも「一人ひとりが注意し合って、協力し合って、助け合って築いていくのが安全QAであり、それを続けることにより「KAITEKI物流」が構築される」とのお言葉を頂きました。

最後にゼロ災宣言で盛会裏に大会は終了しました。



3. 当社第38回技術検討会 開催

2014年11月28日 本社において第38回技術検討会を開催しました。本検討会は全社技術力向上と情報の共有化、及び若手育成を目的として毎年開催しています。昨年同様、石川社長も出席頂き説明された検討内容に対して各場所より参加されている方々から質問やアドバイスが出され、予定していた時間をオーバーするほど、活発な議論の場となりました。

具体的な検討内容は以下の通りです。

- ①設備管理業務OJT中間報告
- ②三菱化学社設備技術部実習成果 中間報告
- ③テント倉庫シート更新時の法対応
- ④タンク及び配管ラック基礎部分地盤沈下対応
- ⑤OPS鉄ラック更新不具合について
- ⑥本社検討案件の紹介 (i-coolソーラー、PDCBコンテナ)
- ⑦SE雨池倉庫 室内温度対策
- ⑧メタクリル酸用 加温タンク設備検討
- ⑨物流センター保全計画

今回は設備管理(保全技術)研修のため、三菱化学社設備技術部へ出向中の若手2名による報告もあり、三菱化学社との交流による設備管理力向上や、人の繋がり拡充などの取り組みに対する効果も見え始めていました。

最後に坂口技術本部長から「Gemba-ryoku: 4M管理の心構え」(4M: 人・設備・方法・原料)について講話を頂きました。

次回以降も、技術力向上と情報の共有化に貢献できる場となるように努めたいと思います。



※ 発表資料の一部 (タンク及び配管ラック基礎部分地盤沈下対応)

4. 三菱化学グループ 生産技術ポスターセッション参加報告

2014年12月3日に第11回三菱化学グループ生産技術ポスターセッションが開催され、当社も前回に続き出展しました。今年は三菱ケミカルホールディングスグループの三菱レイオン社や三菱樹脂社からの発表も加えた全34テーマで開催されました。発表内容は環境・安全に関するものから新規事業や生産システム・プロセス、設備管理に関するものまで多岐にわたり、会場内では発表者と聴講者との間で活発な議論が行われていました。

当社からは下記の3テーマを出展し、それぞれの発表者から説明を行いました。

1. 物流施設(太陽光発電)を活用したCO₂削減並びに環境改善への取組み
〈技術本部〉
2. JR専用枠活用によるモーダルシフトの取組み
〈陸運事業本部〉
3. MCLCの在庫最適化支援サービス
〈ソリューション営業本部〉

約2時間の説明時間ではありましたが、様々なバックグラウンドを持つ多くの方々から多数のご意見を頂き、大変貴重な機会となりました。



5. 場所紹介 ～宮城県利府町の巻～

当部署は東日本エリア営業部企画管理部(仙台)と称されます。正確な所在は仙台市北東部に位置する利府町のA社工場内に駐在(2名)し、場内作業および倉庫、グループ内外の荷主様を含めた輸送等、物流業務全般を行っています。利府町も未曾有の大震災や大津波により被害を受けましたが、他の沿岸の市町に比べ、被害は奇跡的に少なかった状態にあります。しかし、仮設住宅はまだ存在し、沿岸部では今もなお大災害の痕跡を目の当たりにします。物流サービスを通じ、復興の一助となるべく冥冥之志の日々を送っています。さて、利府町についてのご紹介は、次の通りです。

◇2002 FIFAワールドカップで競技会場となった宮城スタジアムは利府町にあります。2020東京オリンピックでもサッカーの会場地となる事でしょう。

◇あまり知られていませんが、実は利府町も松島湾に面しており、景勝地「松島」の一部を形成しています。「海の青と松の緑が対象の妙」も素晴らしいですが、雪に包まれる「白の松島」にも魅了されます。

◇食では梨(利府梨)の生産が盛んで、シーズンには街道沿いに直売店が並びます。密やかにですが利府産牡蠣も美味しくいただけます。なぜか牛タン焼きのお店は少ないのが不思議です。

◇小さな町に高速道路のJCT1つ・IC4つあり、新幹線総合車両センターまである、交通の要衝。利府町は仙台市の新興ベッドタウンでもありますが、仙塩地区の商業核の1つとなり、更なる発展を続けている若い町です。

是非！東北に足を運び、歴史・名湯・祭り・味覚・・・その魅力を堪能ください。



(写真提供:利府町地域整備課)



日本三景「松島」



利府梨



牡蠣など海産物

6. LIFEによる物流改善提案のご紹介 ～実績一貫単価～

当社ソリューション営業部(LIFEグループ)の物流改善提案について、本誌では110号(2014.3.3発行)からシリーズでご紹介しています。今回は、LIFEグループで“物流改善の一つの切り口”としている「実績一貫単価」という指標についてのご紹介です。

製品が完成してから最終的にユーザー(顧客)に納入されるまでに発生する物流費には様々なものがあります(図1)。それらの**物流費実績を一貫で把握する指標**を「実績一貫単価」と呼んでいます。

製品の「販売単価」や「製造単価」についてはユーザーごと、品名ごとに把握できていても、「物流費の単価」については、“**総額**”での把握や、“**機能(輸送・倉庫など)ごと**”での把握しかできず、物流費を一貫して把握できていないというお悩みをよく耳にします。

この様なお悩みの原因の一つは、物流費の複雑さにあります。つまり、物流費は同一ユーザー・品名でも単価が異なるケースがあるためです。例えば、実際の輸送の方法や、在庫の持ち方(図2)により発生する物流費に違いが生じます。また、複数の輸送経路があれば更に複雑です。この様な複雑さが、物流費を一貫で管理することを困難にしていると言えます。

これらの物流費実績を詳細に集計し、ユーザー・品名ごとの単価はもちろん、ロットごと、輸送経路ごと、といった物流独自の切り口で正確な単価を明らかにするのが「実績一貫単価」です。

「実績一貫単価」の算出には様々な物流費データの統合・仕分けが必要なため、LIFEグループでは、膨大なデータの集計に当社独自の計算ツールを使用しています。また、「実績一貫単価」をお客様へご提供するだけでなく、「実績一貫単価」を用いて不採算輸送ルートなど物流改善ターゲットの選定にも役立っています。

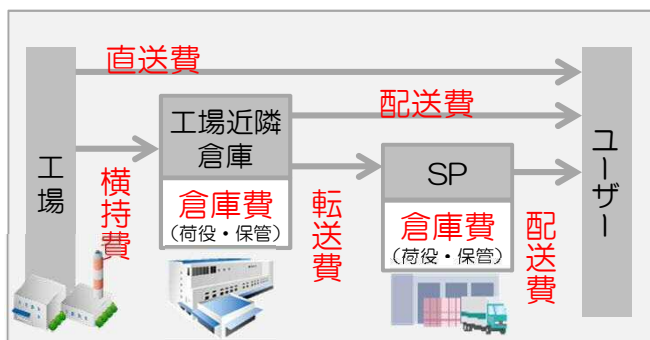


図1: 工場からユーザーまでの間で発生する物流費(例)



図2: 輸送方法・在庫の持ち方(例)

編集後記

ソリューション営業部 芝 啓彦

総選挙さなかの編集後記となりました。当号が皆様のお手元に届くときには、どのような結果に受け止めていらっしゃるのでしょうか。さて、年末年始の恒例行事で年賀状といえば、私の子供時代、宛名書きは勿論の事、挨拶文や挿絵まで手書きでした。最近では、お店やパソコンで印刷する方や携帯電話のメールで新年の挨拶を送信する方も増えてきています。

習慣は時代と共にゆっくりと変化していきますが、ビジネスはグローバル時代に入り、その変化は益々加速しています。

私たち企業人は、その変化に乗り遅れることなく追従し、時には先読みして対応していく事の大切さを再認識させられています。